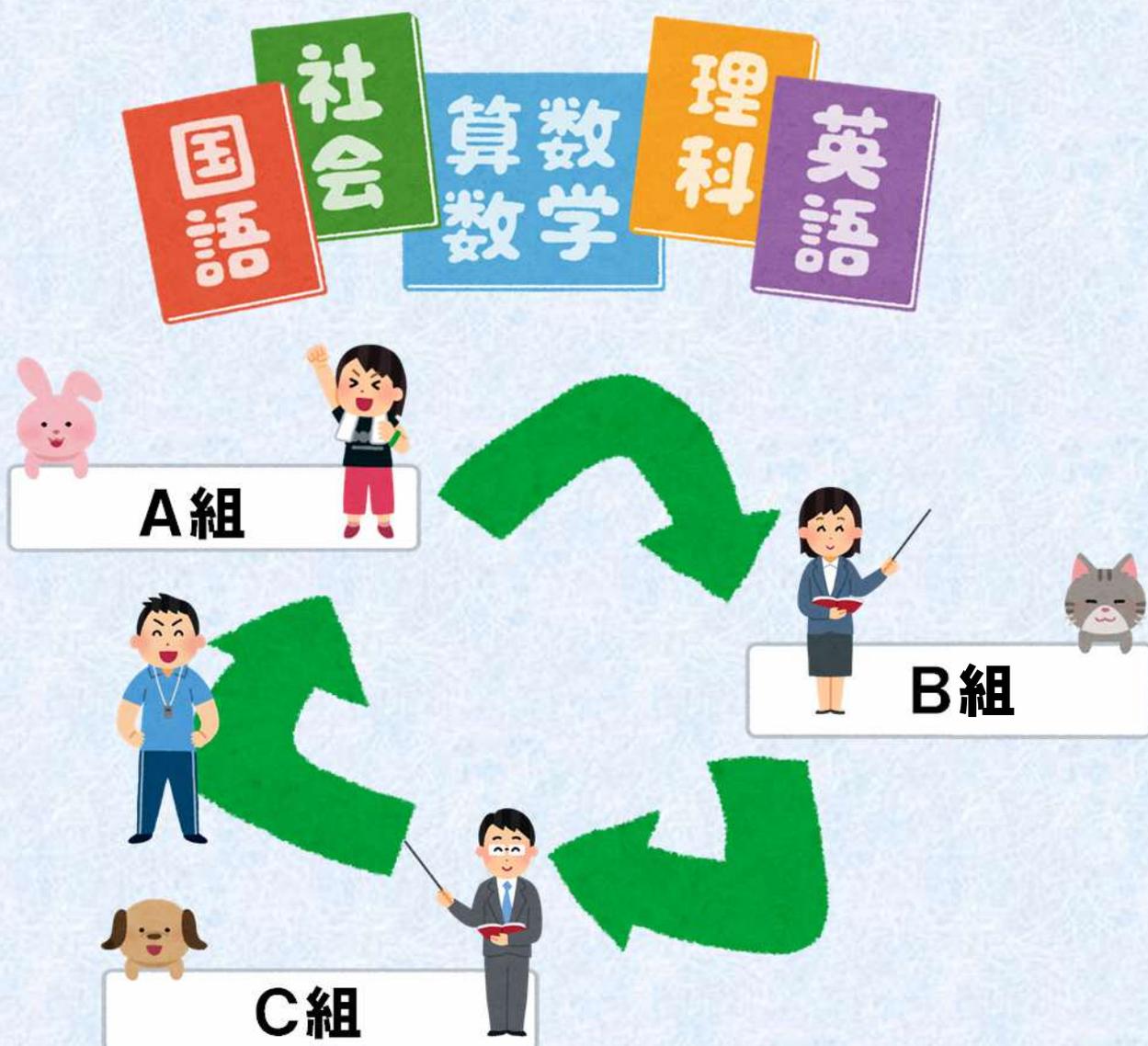


子どもが主体的に学ぶ学校づくり事業

教科担任制及びチーム担任制

実施報告書（令和7年度版）



鳥取県教育委員会

令和8年3月

目次

○はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

1 導入までのスケジュールの見通し・・・・・・・・・・ 3
 ～ 推進校6校の生の声を届けます ～

2 令和7年度推進校の取組・・・・・・・・・・・・・・ 4～12
 ○鳥取市立岩倉小学校 ○鳥取市立大正小学校
 ○米子市立福生東小学校 ○米子市立住吉小学校
 ○倉吉市立河北中学校 ○三朝町立三朝中学校

3 教員・児童生徒アンケートの結果について・・・・・・・・ 13～14

4 教科担任制及びチーム担任制の実際・・・・・・・・・・ 15～16
 導入前、導入後Q&A ～ 推進校の取組から ～

5 補足説明等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

○教科担任制の更なる推進に向けて・・・・・・・・・・・・ 18

○これまでの推進校及び推進協力校（R3～R7）

R 3	○鳥取市立賀露小学校 ○鳥取市立宮ノ下小学校 ○倉吉市立成徳小学校 ○米子市立福生東小学校	○鳥取市立湖山西小学校 ○鳥取市立国府東小学校 ○倉吉市立上北条小学校
R 4	○鳥取市立城北小学校 ○倉吉市立社小学校 ○境港市立中浜小学校	○鳥取市立浜坂小学校 ○米子市立加茂小学校
R 5	○鳥取市立美保小学校 ○米子市立福米東小学校 ○境港市立境小学校	○倉吉市立社小学校 ○米子市立住吉小学校
R 6	○鳥取市立久松小学校 ○北栄町立北条小学校	○鳥取市立賀露小学校 ○境港市立境小学校
R 7	○鳥取市立大正小学校 ○米子市立福生東小学校 ○倉吉市立河北中学校	○鳥取市立岩倉小学校 ○米子市立住吉小学校 ○三朝町立三朝中学校

はじめに

県教育委員会では、学級担任間の交換授業、専科教員等の教科授業を組み合わせた教科担任制を推進しています。令和7年度は、「子どもが主体的に学ぶ学校づくり事業」【A事業 教科担任制及びチーム担任制】として、今までの学校の枠や既存の概念にとらわれない授業づくりや教員の働き方など、新しい知見の創出に取り組む学校を支援することで、県内における子どもたちが主体的に学ぶ学校づくりを推進してきました。

本事業は①学習指導の充実 ②生徒指導の充実 ③働き方改革の推進 ④中学校への円滑な接続を視点として、「鳥取県における教科担任制の考え方」、「鳥取県におけるチーム担任制の考え方」に基づいた取組及び効果的な指導の推進を支援し、小学校・中学校における教科担任制及びチーム担任制の在り方について全県に発信します。

	鳥取県における教科担任制の考え方	◇学級担任間の交換授業 担任同士による教科担任制の推進 (国語と算数、社会と理科等を中心に)	◇専科教員の教科授業 専科加配及び級外教員による教科担任制の推進 (外国語、理科、算数及び体育等)
	鳥取県におけるチーム担任制の考え方	◇学級担任を一人に固定せず、複数の教員で学級運営を分担する ◇学年全体を複数の教員で対応する学年担任制も「チーム担任制」として考える	

○教科等担任制の実施状況（R7学校教育実施状況調査から）

・学級担任間の交換授業を実施した学年	・教科等の担任制を行った教科等（小学校・義務教育学校前期課程）																																																																																																
<table border="1"> <tr><td>1年</td><td>9.4%</td></tr> <tr><td>2年</td><td>13.7%</td></tr> <tr><td>3年</td><td>29.1%</td></tr> <tr><td>4年</td><td>30.8%</td></tr> <tr><td>5年</td><td>43.6%</td></tr> <tr><td>6年</td><td>47.9%</td></tr> </table>	1年	9.4%	2年	13.7%	3年	29.1%	4年	30.8%	5年	43.6%	6年	47.9%	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>国語 (書写を除く)</th> <th>書写</th> <th>社会</th> <th>算数</th> <th>理科</th> <th>音楽</th> <th>図画 工作</th> <th>家庭</th> <th>体育</th> <th>外国語活動 外国語</th> <th>生活 総合的な 学習の時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1年</td><td>0.0%</td><td>30.8%</td><td></td><td>1.7%</td><td></td><td>24.8%</td><td>15.4%</td><td></td><td>22.2%</td><td></td><td>1.7%</td></tr> <tr><td>2年</td><td>3.4%</td><td>47.9%</td><td></td><td>6.0%</td><td></td><td>45.3%</td><td>30.8%</td><td></td><td>25.6%</td><td></td><td>3.4%</td></tr> <tr><td>3年</td><td>11.1%</td><td>64.1%</td><td>21.4%</td><td>15.4%</td><td>72.6%</td><td>62.4%</td><td>30.8%</td><td></td><td>22.2%</td><td>54.7%</td><td>1.7%</td></tr> <tr><td>4年</td><td>16.2%</td><td>64.1%</td><td>21.4%</td><td>19.7%</td><td>76.1%</td><td>79.5%</td><td>42.7%</td><td></td><td>20.5%</td><td>59.8%</td><td>0.9%</td></tr> <tr><td>5年</td><td>16.2%</td><td>50.4%</td><td>43.6%</td><td>23.1%</td><td>72.6%</td><td>78.6%</td><td>35.0%</td><td>70.9%</td><td>19.7%</td><td>73.5%</td><td>2.6%</td></tr> <tr><td>6年</td><td>17.1%</td><td>53.0%</td><td>41.9%</td><td>23.9%</td><td>76.1%</td><td>78.6%</td><td>37.6%</td><td>71.8%</td><td>19.7%</td><td>72.6%</td><td>0.9%</td></tr> </tbody> </table>		国語 (書写を除く)	書写	社会	算数	理科	音楽	図画 工作	家庭	体育	外国語活動 外国語	生活 総合的な 学習の時間	1年	0.0%	30.8%		1.7%		24.8%	15.4%		22.2%		1.7%	2年	3.4%	47.9%		6.0%		45.3%	30.8%		25.6%		3.4%	3年	11.1%	64.1%	21.4%	15.4%	72.6%	62.4%	30.8%		22.2%	54.7%	1.7%	4年	16.2%	64.1%	21.4%	19.7%	76.1%	79.5%	42.7%		20.5%	59.8%	0.9%	5年	16.2%	50.4%	43.6%	23.1%	72.6%	78.6%	35.0%	70.9%	19.7%	73.5%	2.6%	6年	17.1%	53.0%	41.9%	23.9%	76.1%	78.6%	37.6%	71.8%	19.7%	72.6%	0.9%
1年	9.4%																																																																																																
2年	13.7%																																																																																																
3年	29.1%																																																																																																
4年	30.8%																																																																																																
5年	43.6%																																																																																																
6年	47.9%																																																																																																
	国語 (書写を除く)	書写	社会	算数	理科	音楽	図画 工作	家庭	体育	外国語活動 外国語	生活 総合的な 学習の時間																																																																																						
1年	0.0%	30.8%		1.7%		24.8%	15.4%		22.2%		1.7%																																																																																						
2年	3.4%	47.9%		6.0%		45.3%	30.8%		25.6%		3.4%																																																																																						
3年	11.1%	64.1%	21.4%	15.4%	72.6%	62.4%	30.8%		22.2%	54.7%	1.7%																																																																																						
4年	16.2%	64.1%	21.4%	19.7%	76.1%	79.5%	42.7%		20.5%	59.8%	0.9%																																																																																						
5年	16.2%	50.4%	43.6%	23.1%	72.6%	78.6%	35.0%	70.9%	19.7%	73.5%	2.6%																																																																																						
6年	17.1%	53.0%	41.9%	23.9%	76.1%	78.6%	37.6%	71.8%	19.7%	72.6%	0.9%																																																																																						
<ul style="list-style-type: none"> ・中学年の担任間の交換授業が増加。高学年はおよそ半数に迫っている。 ・授業の準備や後片付けに時間のかかる教科、実技指導を伴う教科、専門的な力量が必要な教科で割合が高い。 																																																																																																	

○チーム（学年）担任制の実施状況（R7学校教育実施状況調査から）

	実施していない	一部学年で実施	全学年で実施	検討中
小学校・義務教育学校前期課程	79.5%	9.4%	4.3%	6.8%
中学校・義務教育学校後期課程	87.5%	3.6%	7.1%	1.8%

※「実施していない」と「検討中」の2つを回答した学校は「検討中」として集計。

チーム担任制実施校の取組例（推進校を除く）

（小学校・義務教育学校前期課程）

- ・6年生2学級によるチーム担任制を行う。
- ・3・4年生、5・6年生をチームとして3名の担任をローテーション。
- ・2年生以上で実施。低・中・高学年団に級外の教諭を配置。
- ・3年生以上で実施。朝の会・帰りの会・給食・掃除の時間を2週間ずつ交代。

（中学校・義務教育学校後期課程）

- ・短学活や給食指導、道徳は学年担任を含めて担当。
- ・2週間から1か月程度の周期で、担任をローテーション。
3年生担任は、進路指導を重点に置き、固定担任とした。
- ・2年生担任は1か月間、朝の会・給食指導・掃除・帰りの会を担任が週替わりでローテーション。
- ・全学年の通常学級で実施。各学年2クラスを3人のチーム担任が受け持つ。
チームリーダー（学年主任）も担任に含める。

1 導入までのスケジュールの見通し ～ 推進校6校の生の声を届けます ～

※チーム担任制導入を検討する学校は、導入前年度からの準備が必要。やるなら「余裕」をもって！

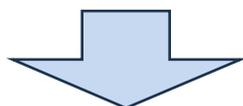
○教科担任制が進んでいけば、チーム担任制の導入に対するハードルは少し低い。
(教科担任制がもとになっている)
→第1ハードルが教科担任制、第2ハードルがチーム担任制の感覚。(18ページ参照)

導入の前年度まで

- 校長が自校への導入を検討する。→教頭、教務主任と相談する。
- 自校の教員が「チーム(教科)担任制」を理解する。
 - ・チーム(教科)担任制に係る情報を、校内の教員が少しずつでも共有できるようにする。
 - ・メリット・デメリットを理解しておく。チーム担任制の方法だけの議論にならないように、「何のために導入するのか」に立ち返る。
- チーム担任制を目にする機会を作る。情報を仕入れる。(先進校視察、研修、文献など)
- 「お試し期間」としてやってみることで、手ごたえをつかむ。思い立ったらチャレンジ!
- 教員内で対話を重ねながら、「我が学校流」を目指す。
- 学校スタンダードを作成する(朝の会、帰りの会、給食、掃除)。
- チーム(教科)担任制の導入に関係なく、児童生徒の情報共有をする時間と方法を定着させておく。
- PTA執行部に説明する。
- 学校運営協議会の議題として運営協議会委員に諮る。
【1月～3月】
 - ・参観日で周知。該当学年に説明会を開催。
 - ・保護者向け文書(校長室だより等)で、「来年度の導入について」周知。
- 全教員の「昔取った杵柄」を大事にしつつも、新しいことに挑戦する意識改革を図る。
 - ・教員が引っ張り、導いていたものを「児童生徒に任せ、委ねる意識」へと変化させる。
→子どもや保護者に対する変化への理解より、教員の理解が一番難しい!
 - ・「自分の学級」だけで実施していた指導を、学年全体に開いていく。教員同士「見せる・見られる」意識を持つ。

導入年度

- 【4月～5月】
 - ・保護者向け文書(校長室だより等)で、「チーム担任制の想定Q&A」を周知。
 - ・PTA総会で説明。・参観日に保護者会を開催。
- 学年団で指導の方針が揃うように話し合う。
- 参観日などの学校公開日に交換授業を取り入れ、啓発していく。
- 学年全体で子どもを見る「当事者意識」を持ち続ける。
- 欠席連絡の仕方など、進めていくうえで見つかった課題を、やりながら修正する。
- 担任の荷物置場として、キャスター付き8段ラック(例)を使用(教室移動しやすい)。
- 学級通信を学年通信、学級経営案を学年経営案、学級目標を学年目標として、担任一人あたりの負担を減らす。



子どもたちが主体的に学ぶように、自立自走した子どもを育てる。

2 令和7年度推進校の取組

鳥取市立岩倉小学校の導入状況（教科担任制+α部分をチームで取組“チーム学年担任”）

☆教科担任制…3年～6年

☆情報共有の方法…終礼や口頭での伝達

3年		学級	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語活動	道徳	総合	学活	関わる教員数	担当教科数
学年団 A～C	教科担任制 専科・級外等 M先生	A先生 1組	A	A	B	A	M	C	A	A	A,M	A	A	A	A	4	9
		B先生 2組	B	A	B	B	M	C	B	B	B	A	B	B	B	4	9
		C先生 3組	C	A	B	C	M	C	C	C	C	A	C	C	C	4	9
4年		学級	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語活動	道徳	総合	学活	関わる教員数	担当教科数
学年団 D～F	教科担任制 専科・級外等 M先生 N先生 O先生	D先生 1組	D	N	D	D	M	D	D	D	D	D	D	D	D	3	10
		E先生 2組	E	N	E	F	M	O	E	E	E,N	E	E	E	E	5	9
		F先生 3組	E	N	F	F	M	O	F	F	F	F	F	F	F	5	9
5年		学級	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	学活	関わる教員数	担当教科数
学年団 G～I	教科担任制 専科・級外等 O先生 P先生	G先生 1組	G	G	I	G	H	I	P	O	G,P	H	G	G	G	5	6
		H先生 2組	G	G	I	H	H	I	P	O	H,P	H	H	H	H	5	7
		I先生 3組	G	G	I	I	H	I	P	O	I,P	H	I	I	I	5	7
6年		学級	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	学活	関わる教員数	担当教科数
学年団 J～L	教科担任制 専科・級外等 O先生 P先生	J先生 1組	J	L	J	K	P	O	O	O	J	L	J	J	J	5	6
		K先生 2組	K	L	J	K	P	O	O	O	K	L	L	K	K	5	6
		L先生 3組	L	L	J	K	P	O	L	O	L	L	L	L	L	5	6

- ・9月に4年生、6年生で担任を交代するお試し期間を実施。（朝の会、給食、帰りの会）
- ・教科担任として3クラス持っていることから、関わる教員数や持ち時間数に偏りがなくなっている。
- ・参観日に、教科担任を入れ替えて公開した学年もある。
- ・初任者の育成（4年E先生）のため、前期はD先生が1・2組の国語、E先生が1・2組の算数、後期はE先生が2・3組の国語、F先生が2・3組の算数を受け持つことによって学年内複数の教員で教材研究をするとともに、複数回授業ができる環境を整えた。

○教科担任制を行うことで、授業準備の負担が減る。→質の高い教材研究が可能になった。

○学年の児童理解が進む。→組織的に指導ができ、生徒指導上の早期発見・共有・協力体制が強化された。

○「チーム学年担任」、「ブロック（低・中・高学年のシマ）」で動く意識が浸透している。チーム担任制のような物理的な担任のローテーションをしなくとも、「学年の教員で学年全員の子どもの子どもを育てる」意識改革が進んだ。

△教科担当者不在時の補欠担当が組みにくい。補欠授業を考える際、まずはその教科のテストができないかを考え、次に出られる教員を充てていくこととした。

△教科ごと、学年内の授業進度に差ができることがあるが、なかなか回復しづらい。

△職員からは、「教科担任制で他の学級に入っているからチーム担任制までは…」との声もある。

☆来年度に向けて

- ・低学年も1教科程度交換授業を行う。
- ・学年で、道徳の時間をそろえられれば交換授業を検討（1題材を複数学級で実施）
- ・共通指導・児童理解の面から、教科（授業）以外の一部で入替があってもよい。
- ・掲示物等の教室環境を統一する。必要最小限で。
- ・個別懇談前の数日間は、放課後の時間を十分にとる。
- ・「前期は国語、後期は算数」といった半年交代や、若手全員が全教科を経験できるような柔軟な組み方を目指す。

2 令和7年度推進校の取組

鳥取市立大正小学校の取組（チーム担任制）

☆チーム担任制…4年（2クラス）、5年（2クラス）と6年（1クラス）の合同で3クラス

ローテーション期間…2週間ごと、行事に合わせて

3学期、6年生は卒業に向けた取組を進めるため、5年生とともにローテーションを中止。

☆情報共有の方法…口頭やC4thの連絡機能で共有。日々内容は会話で。→話だけだと流れてしまい、意識のずれが生まれる。「みんなで共有して、みんなで子どもたちを育てる」

→今後、C4th掲示板、共有ファイル、ミニホワイトボードなどを使い分けて活用。

4年		学年団 学級	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語 活動	道徳	総合	学活	関わる 教員数	担当 教科数
学年団 A・B	チーム担任制 (学年担任制)	A先生		○		○			○	△	○	○	○	○	○	△	8
	(2週間ごと)	B先生	○		○					△	○		○	○	○	△	6
	専科・級外等 F先生 G先生 H先生	1組	BF	A	B	A	G	H	A	△	A	A	A	A	A	5	△
		2組	BF	A	B	A	G	H	A	△	B	A	B	B	B	5	△
5年 6年		学級	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	学活	関わる 教員数	担当 教科数
学年団 C～E	チーム担任制 (2週間ごと)	C先生		○	○		○		○	○	○		○	○	○	△	9
		D先生				○			○	○	○		○	○	○	△	7
		E先生	○						○	○	○	○	○	○	○	○	△
	専科・級外等 F先生 G先生 H先生 I先生	5年1組	E	C	C	D	G	F	C	C	C	F	C	C	C	5	△
		5年2組	E	C	C	D	G	H	D	D	D	F	D	D	D	6	△
		6年1組	E	I	C	D	C	E	E	E	E	E	E	E	E	4	△

- ・先進校視察から、「チーム担任を低学年にも」という意見が出たため、「チーム担任会議」を設立。推進委員メンバーは校長、教頭、教務主任、教諭3名（低・中・高）。推進委員がほかの教員に面談して、不安感や負担感を出し合い、持っていた教科など、希望を聞いた（「心のベクトルをそろえる」「よりよいチーム担任制を自分たちで考える」など）。
- ・先生方のチーム担任制についての気持ちを聞くアンケートを2回実施。
- ・特別活動（学級活動、異学年交流、委員会活動、児童会活動等）を推進し、児童の自治力を高め、教員への依存を減らす。

○どの教科でも教える意識は必要ではあるが、担当教科が減るので、苦手な教科でも教材研究ができる。教材研究が深化し、専門性を生かすことができた。職員室内で教科の相談をしている声やアドバイスが活発になった。

○複数の教員で学級を見ることで、多角的な視点で児童を把握でき、変化や課題に気づきやすくなるとともに、担任一人一人の心理的な負担も軽減された。

△「誰が主体か」が不明確になりやすく、担任としての当事者意識が薄れる懸念がある。

☆来年度に向けて

- ・各学年の教材（ワークシートなど）を学校のサーバーに残し、教材研究に活用。誰がどの学年を受け持ってもいいように学年の重点や取組を残し、引継ぐ（特に学校のリーダーとなる6年生の1年間の流れは大事）。
- ・Tルーム（教室近くの教員控室・教材置場）の設置を検討する。学年内で各教科や学校行事の進捗状況が見える化する。
- ・チーム担任制と並行して、委員会、代表委員会等、集会活動の活性化を図りたい。自治力を高めていくことで学力向上をねらう（R8は「指示を待つ子ども」から「自律した子ども」を目指す）。
- ・定時の情報共有時間（毎朝5分と週1回）を設定する。情報共有の視点となる「チェック項目」を準備する。

鳥取市立大正小学校の取組（チーム担任制）

☆チーム担任制 各先生の担当教科等とローテーション教科等一覧、総持ち時間数

	4年1組	4年2組		ローテーション教科等	持ち時間		
A先生	書写	1	書写	1	体育 総合	教科担当 19.4	
	算数	5	算数	5			
	図工	1.7	図工	1.7		ローテーション 5 合計 24.4	
	外国語活動	1	外国語活動	1			
	道徳	1					
	特活	1					
B先生	国語	5	国語	5	体育 総合	教科担当 17.2	
	社会	2.6	社会	2.6			
			道徳	1		ローテーション 5 合計 22.2	
			特活	1			
級外	4年1組	4年2組					
F先生	国語	1	国語	1			
G先生	理科	3	理科	3			
H先生	音楽	1.7	音楽	1.7			
	学級合計（ローテーション教科等を除く）						
	24	24					
	5年1組	5年2組	6年1組	ローテーション教科等	持ち時間		
C先生	書写	1	書写	1		教科担当 23.5	
	社会	2.9	社会	2.9			
				社会	3		ローテーション 0
				理科	3		
	図工	1.4				合計 23.5	
	家庭	1.7					
	体育	2.6					
	道徳	1					
総合	2						
特活	1						
D先生	算数	5	算数	5		教科担当 24.7	
			図工	1.4			
			家庭	1.7		ローテーション 0	
			体育	2.6			
			道徳	1			
			総合	2			
			特活	1			
				合計 24.7			
E先生	国語	4	国語	4		教科担当 25	
			音楽	1.4			
			図工	1.4		ローテーション 0	
			家庭	1.6			
			体育	2.6			
			外国語	2			
			道徳	1			
			総合	2			
			特活	1			
				合計 25			
級外	5年1組	5年2組	6年1組				
F先生	音楽	1.4					
	外国語	2	外国語	2			
G先生	理科	3	理科	3			
H先生			音楽	1.4			
I先生			書写	1			
	学級合計（ローテーション教科等を除く）						
	29	29	29				

2 令和7年度推進校の取組

米子市立福生東小学校の取組（教科担任制、チーム担任制）

☆教科担任制…4年（4クラス）

☆チーム担任制…5年（3クラス）、6年（3クラス）・ローテーション期間…1学期ごと

☆情報共有の方法…空いた時間、隙間時間を活用。口頭での素早い共有が主。

4年		学級	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語活動	道徳	総合	学活	関わる教員数	担当教科数	
学年団 A~D	教科担任制	A先生 1組	C	K	C	A	M	N	A		A	D	A	A	A	6	6	
	専科・級外等 K先生 L先生 M先生 N先生	B先生 2組	B	K	B	L	M	N	D		B	D	D	B	B	6	5	
		C先生 3組	C	K	C	L	M	C	A		C	D	A	C	C	6	6	
		D先生 4組	B	K	B	A	M	C	D		D	D	D	D	D	6	6	
5年		学年団 学級	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	学活	関わる教員数	担当教科数	
学年団 E~G	チーム担任制 (学期ごと)	E先生				○				○	○			○	○		5	
		F先生			○						○	○	○	○	○		6	
		G先生	○	○					○		○				○	○		5
	専科・級外等 N先生 O先生 P先生	1組	G	G	F	E	O	N	G	E	E	F	F	F	E	E	5	
		2組	G	G	F	E	O	N	G	E	F	F	F	F	F	F	5	
		3組	G	G	F	E	P	N	G	E	G	F	F	G	G	G	5	
6年		学年団 学級	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	学活	関わる教員数	担当教科数	
学年団 H~J	チーム担任制 (学期ごと)	H先生				○					○	○		○	○		5	
		I先生	○	○					○		○			○	○		5	
		J先生			○					○	○		○	○	○		6	
	専科・級外等 N先生 P先生	1組	I	I	J	H	P	N	I	J	H	H	J	H	H	5		
		2組	I	I	J	H	P	N	I	J	I	H	J	I	I	5		
		3組	I	I	J	H	P	N	I	J	J	H	J	J	J	5		

・その学年の先生全員がその学年の全ての子どもを見るように取り組んでいる（4年生は学期で受け持つ学級を変更）。

○チーム担任制は学級担任の色を付けすぎないような雰囲気もあるが、色をつけて担任が変わったときに次の担任が受け持った学級で学ぶよさもある。

○チームでやっているので、複数の教員で見るのは非常によい。掲示物等はチーム担任制でなくてもそろっている状態になっている（一次支援の視点）。

△学期が変わって別の担任が受け持つが、先生が変わることで環境変化に適応できにくくなった子どもがいた。

（チーム担任制を実施しながら校内で見出していったこと）

- ・チーム担任制を押し進めるよりも教科担任制を広げる方が、学級経営の充実（教員の学級経営力の育成・向上）と、子ども・教員双方のセーフティーネットの担保、これら二つの両立が図れるのではないかな。
- ・若い先生の成長には、短期ローテーションよりも教科担任制の方が効果があるのではないかな。1年間学級経営を積むことや子どもとの人間関係を深く構築することが教員の経験値を上げていくことにつながるのではないかな。
- ・チーム担任制で子どもの自治性・主体性を喚起する良さはよく分かりつつも、小学生段階は未熟なところがまだまだあるので、信頼関係のある一人の担任がしっかり導いて（指導して）下支えしていくことも大切かもしれない。ひいてはそれが教員の力量形成にもつながっていくと思われる。

☆来年度に向けて

- ・教科担任制については引き続き充実を図っていく。チーム担任制は担任のローテーションは取りやめるが、チーム担任制のメリットの部分教科担任制のさらなる充実で展開していく。
- ・複数の教員体制による支援・指導については引き続き各学年・学級の状況に応じて臨機応変に対応していく。

米子市立福生東小学校の取組（教科担任制、チーム担任制）

☆チーム担任制 各先生の担当教科等とローテーション教科等一覧、総持ち時間数

	5年1組		5年2組		5年3組		ローテーション教科等		持ち時間
E先生	算数	5	算数	5	算数	5	体育	2.6	教科担当
	家庭	1.7	家庭	1.7	家庭	1.7	総合	2	20.1
							特活	1	ローテーション
									5.6
									合計
									25.7
F先生	社会	2.9	社会	2.9	社会	2.9	体育	2.6	教科担当
	外国語	2	外国語	2	外国語	2	総合	2	17.7
	道徳	1	道徳	1	道徳	1	特活	1	ローテーション
									5.6
									合計
									23.3
G先生	国語	4	国語	4	国語	4	体育	2.6	教科担当
	書写	1	書写	1	書写	1	総合	2	19.2
	図工	1.4	図工	1.4	図工	1.4	特活	1	ローテーション
									5.6
									合計
									24.8
級外	5年1組		5年2組		5年3組				
N先生	音楽	1.4	音楽	1.4	音楽	1.4			
O先生	理科	3	理科	3					
P先生					理科	3			
	学級合計（ローテーション教科等を除く）								
	23.4		23.4		23.4				
	6年1組		6年2組		6年3組		ローテーション教科等		持ち時間
H先生	算数	5	算数	5	算数	5	体育	2.6	教科担当
	外国語	2	外国語	2	外国語	2	総合	2	21
							特活	1	ローテーション
									5.6
									合計
									26.6
I先生	国語	4	国語	4	国語	4	体育	2.6	教科担当
	書写	1	書写	1	書写	1	総合	2	19.2
	図工	1.4	図工	1.4	図工	1.4	特活	1	ローテーション
									5.6
									合計
									24.8
J先生	社会	3	社会	3	社会	3	体育	2.6	教科担当
	家庭	1.6	家庭	1.6	家庭	1.6	総合	2	16.8
	道徳	1	道徳	1	道徳	1	特活	1	ローテーション
									5.6
									合計
									22.4
級外	6年1組		6年2組		6年3組				
N先生	音楽	1.4	音楽	1.4	音楽	1.4			
P先生	理科	3	理科	3	理科	3			
	学級合計（ローテーション教科等を除く）								
	23.4		23.4		23.4				

2 令和7年度推進校の取組

米子市立住吉小学校の取組（チーム担任制）

☆チーム担任制…5年（4クラス）、6年（4クラス）

ローテーション期間…1, 2学期は3～4週間ごと、3学期は2週間ごと

☆情報共有の方法…1日15分の情報共有の時間を確保、週1回の学年会の実施

管理職と5・6年担任による月1回の学年担任制ミーティングの実施

→次の改善策を考え、ミーティング後には「学年担任制通信」を作成して教員に配布。

5年		学年団 学級	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	学活	関わる 教員数	担当 教科数	
学年団 A～D	チーム担任制 (2～3週間ごと)	A先生				○			○		○	○	○	○	○		7	
		B先生				○	○		○		○	○	○	○	○		8	
		C先生	○	○	○			○						○	○	○		6
		D先生	○	○	○							○		○	○	○		6
	専科・級外等 I先生 J先生 K先生 L先生 M先生	1組	C	C	D	A	B	C	J	K	A	J	A	A	A	A	7	
		2組	C	C	D	B	I	C	A	L	B	A	B	B	B	B	7	
		3組	D	D	C	B	I	C	B	K	D	A	C	C	C	C	7	
		4組	D	D	D	A	I	C	A	L	M	B	D	D	D	D	7	
	6年		学年団 学級	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	学活	関わる 教員数	担当 教科数
	学年団 E～H	チーム担任制 (2～3週間ごと)	E先生	○	○							○	○	○	○	○		6
F先生						○			○	○	○		○	○	○		7	
G先生			○	○			○		○		○		○	○	○		7	
H先生						○		○		○		○		○	○		7	
専科・級外等 I先生 J先生 L先生 N先生		1組	G	G	J	H	I	H	F	F	E	E	E	E	E	E	6	
		2組	E	E	N	H	G	H	N	F	F	J	F	F	F	F	6	
		3組	E	E	N	F	G	L	G	H	G	J	G	G	G	G	7	
		4組	G	G	N	F	I	L	N	H	H	E	H	H	H	H	7	

- ・これまでも教科担任制をすることによって「学年の先生」と感じられ、他学級での授業の「出張感」がなくなり学年指導がしやすくなっていた。
- ・チーム担任制では学年団の教員がすべての学級の授業に出られるようにしている。
- ・1学期末懇談は変容を見取り、伝えていくために4月に担任した教員が行う（別教員の希望も保護者に募る）。
- ・生徒指導は役割を分け、「キーパーソン」をその都度決めて対応する。

○担任が出張等で不在の日があったが、いつも通りの生活ができていた。

○若い先生が全クラスに出ることで遠慮せずに指導ができ、全体指導でも活躍できている。○J Tが進み、「次のクラスではこうしよう」と意欲が見られ、子どもたちを見る目が変わる。

○教員の意識改革が進みつつある。「自分の学級さえよければいい」から「学年みんなで」、「自分の前でだけいい子にしていればいい」から「誰が担任でも」となっている。

○子どもの様子について、自分では気づかないことを別の教員から情報提供してもらうことができていた。

△子どもたちの声「担任と仲良くなったのに変わってしまって寂しい」「先生によってやり方が違うから慣れるのに時間がかかる」「先生が変わると新鮮味があるけど落ち着かない」といった課題を改善していく。

☆来年度に向けて

- ・さらに教員の意識改革を継続していく。多面的・多角的に児童と向き合っていくようにする。
- ・児童の主体性を育む「三自（自主・自立・自治）」の学校を。小さな成長を見つけ、励まし、伸ばしていく。

米子市立住吉小学校の取組（チーム担任制）

☆チーム担任制 各先生の担当教科等とローテーション教科等一覧、総持ち時間数

	5年1組	5年2組	5年3組	5年4組	ローテーション教科等	持ち時間
A先生	算数 5			算数 5	道徳 1	教科担当 19.4
		図工 1.4		図工 1.4	総合 2	ローテーション 4
	体育 2.6				特活 1	合計 23.4
		外国語 2	外国語 2			
B先生		算数 5	算数 5		道徳 1	教科担当 19
	理科 3		図工 1.4	体育 2.6	総合 2	ローテーション 4
				外国語 2	特活 1	合計 23
C先生	国語 4	国語 4			道徳 1	教科担当 18.5
	書写 1	書写 1			総合 2	ローテーション 4
	音楽 1.4	音楽 1.4	社会 2.9	音楽 1.4	特活 1	合計 22.5
			音楽 1.4			
D先生			国語 4	国語 4	道徳 1	教科担当 21.3
			書写 1	書写 1	総合 2	ローテーション 4
	社会 2.9	社会 2.9		社会 2.9	特活 1	合計 25.3
			体育 2.6			
級外	5年1組	5年2組	5年3組	5年4組		
I先生		理科 3	理科 3	理科 3		
J先生	図工 1.4					
	外国語 2					
K先生	家庭 1.7		家庭 1.7			
L先生		家庭 1.7		家庭 1.7		
M先生		体育 2.6				
	学級合計（ローテーション教科等を除く）					
	25	25	25	25		
	6年1組	6年2組	6年3組	6年4組	ローテーション教科等	持ち時間
E先生		国語 4	国語 4		道徳 1	教科担当 16.6
		書写 1	書写 1		総合 2	ローテーション 4
	外国語 2			体育 2.6	特活 1	合計 20.6
				外国語 2		
F先生			算数 5	算数 5	道徳 1	教科担当 17.2
	図工 1.4				総合 2	ローテーション 4
	家庭 1.6	家庭 1.6			特活 1	合計 21.2
			体育 2.6			
G先生	国語 4			国語 4	道徳 1	教科担当 20
	書写 1	理科 3	理科 3	書写 1	総合 2	ローテーション 4
			図工 1.4		特活 1	合計 24
		体育 2.6				
H先生	算数 5	算数 5			道徳 1	教科担当 18.6
	音楽 1.4	音楽 1.4			総合 2	ローテーション 4
	体育 2.6		家庭 1.6	家庭 1.6	特活 1	合計 22.6
級外	6年1組	6年2組	6年3組	6年4組		
I先生	理科 3			理科 3		
J先生	社会 3					
		外国語 2	外国語 2			
L先生			音楽 1.4	音楽 1.4		
N先生		社会 3	社会 3	社会 3		
		図工 1.4		図工 1.4		
	学級合計（ローテーション教科等を除く）					
	25	25	25			

2 令和7年度推進校の取組

倉吉市立河北中学校の取組（チーム担任制）

☆チーム担任制…1年（3クラス）、2年（4クラス）、3年（4クラス）

ローテーション期間…1週間ごと（学年主任は入らない）

☆情報共有の方法…ドライブに保存

1年		火曜始まり	ローテ①	②	③	④	①	②	道徳	総合	学活
		学級									
学年団 A～E	チーム担任制 (1週間ごと) <small>学年主任は入らず 5人でローテーション</small>	1組	A	DE	C	B	A	DE	D E C	A B C	D E C
		2組	B	A	DE	C	B	A			
		3組	C	B	A	DE	C	B			
2年		火曜始まり	ローテ①	②	③	④	⑤	①	道徳	総合	学活
		学級									
学年団 F～L	チーム担任制 (1週間ごと) <small>学年主任は入らず 5人でローテーション</small>	1組	F	J	I	H	G	F	J K L	F G H I	J K L
		2組	G	F	J	I	H	G			
		3組	H	G	F	J	I	H			
		4組	I	H	G	F	J	I			
3年		月曜始まり	ローテ①	②	③	④	⑤	①	道徳	総合	学活
		学級									
学年団 M～Q	チーム担任制 (1週間ごと) <small>学年主任は入らず 5人でローテーション</small>	1組	M	Q	P	O	N	M	M N O P Q	M N O P Q	M N O P Q
		2組	N	M	Q	P	O	N			
		3組	O	N	M	Q	P	O			
		4組	P	O	N	M	Q	P			

- ・D先生は初任者でE先生とペアで担任をしている。
- ・学年主任はローテーションに入らず、学年全体のディレクターとしての役割に徹している。
生徒指導事案などの業務について、これまで学級担任が解決し、学年主任に報告していたことが学年主任に集約・相談されるようになり、学年主任の負担が大きくなっている。
- ・導入の目的は、①生徒の「自律」を促進、②相談できる先生を増やす、③教員集団の協働性の向上
- ・情報共有を確実にするため、月曜日（週末の状況確認後）に担任をバトンタッチし、火曜日から新しい担任がスタートするようにしている（1、2年生）。

○毎週月曜の学年会により、生徒に対する情報交換の機会や対話が増え、学年団での当事者意識が生まれる。学年対応の意識が向上する。

○課題を抱えるクラスについて、学年全体＋管理職で考えるようになった。その結果、固定担任制で「担任の責任」とされていた学級の破綻が回避されている。

○チーム担任の一員の女性担任に、男性教員には話せない自分の悩みを相談でき、救われた生徒がいた。

△「自分の学級を育てたい」という固定担任制の意識を払拭できず、チーム担任制に抵抗がある教員が少なからずいる。

△先生の個性や指導力によって生徒の態度が変化し、生徒の自主性・主体性の育成という目標が達成できていない学年もある。個人の学級経営力が発揮できていないと感じている先生もいる。

☆来年度に向けて

- ・課題は多いが新しい挑戦ゆえの苦しみであり、克服すべきプロセスであると捉え、試行錯誤を積み重ねたい。
- ・担任のローテーションは各学年で、学級数＋1（学年主任でない）で行う。
- ・子どもが主体的に行動（自律）できるように、生徒自身が目標を設定して頑張れるように仕組んでいく。
- ・固定担任制に戻しても解決しない問題がある。「担任（教員）が学級をつくる」意識から「生徒が学級をつくる」意識への転換を図る。
- ・個人懇談（年間3回）は同年同じ教員とする。

2 令和7年度推進校の取組

三朝町立三朝中学校の取組（チーム担任制）

- ☆チーム担任制…1年（2クラス）・ローテーション期間…2週間ごと（学年主任も担任）
2年（2クラス）・ローテーション期間…1週間ごと（学年主任も担任）
3年（2クラス）・ローテーション期間…2週間ごと（学年主任は入らない）

☆情報共有の方法…学年の情報交換会を週1回取り、日常的に情報交換をする。

1年		月曜始まり 学級	ローテ①	②	③	④	①	②	道徳	総合	学活
学年団 A～D	チーム担任制 (2週間ごと)	1組	A	C	B	D	A	C	A B C D	A B C D	A B C D
	学年主任も入る 4人でローテーション	2組	B	D	A	C	B	D			
2年		月曜始まり 学級	ローテ①	②	③	④	⑤	⑥	道徳	総合	学活
学年団 E～H	チーム担任制 (1週間ごと)	1組	E	G	F	G	E	G	E F G H	E F G H	E F G H
	学年主任も入る 3人でローテーション	2組	F	E	G	E	F	E			
3年		月曜始まり 学級	ローテ①	②	①	②	①	②	道徳	総合	学活
学年団 I～L	チーム担任制 (2週間ごと)	1組	I	J	I	J	I	J	I J K L	I J K L	I J K L
	学年主任は入らない 2人でローテーション	2組	J	I	J	I	J	I			

- ・学期末は「ベーシック（正担任）」が学級担任をする。
- ・学年主任が担任ローテーションに入ると負担が大きい（特に1年生の生活指導や各種業務）。
3年の学年主任はローテーションから外れ、全体を見る立場に。
- ・朝の出欠確認はローテーションの担任が行うが、欠席連絡等の追跡は担任外の職員が担当する。
- ・小中連携として、小学校の高学年授業に中学校教員（算数、図工）が入り、専門性を生かした指導で児童の意欲向上と中1ギャップの解消に貢献している。

○生徒アンケート「勉強が楽しい」「勉強がよくわかる」等の数値が向上。たくさんの先生が関わることが結果として出ているかもしれない。

○自分のクラスから離れて俯瞰して見ることができ、成長したことや課題が見えやすくなった。

○担任が出張や休暇で不在の時には学年団で対応しやすくなった。

△多くの教員が「自分の学級」という意識から脱却できず、「学年全体で子どもを見る」という意識転換が不十分。

生徒の受け入れはできているが、教員の受け入れ（理解）が十分ではない。

△担任が変わることで、生徒の態度や学習への姿勢が変わりやすく、指導の徹底が難しい（楽な方向に流れる）。

△行事前の多忙期に「正担任」が関わる時間を増やそうとする（抱え込む）傾向があり、生徒が主体的に学ぶ学校づくりという目標達成ができていない。

☆来年度に向けて

- ・学年主任はローテーションから外し、学年全体の様子を見てもらう。行事では「正担任」の思いを伝えて切磋琢磨させ、「学年」として目指すものも掲げて「団結」させる行動も促す。
- ・生徒の主体性を高める取組の一つとして考え、生徒に任せて委ねる場面を作っていく。
- ・学年での共通実践（廊下掲示物、教室経営、短学活）での学級差をなくしていく。
- ・短学活（朝・終）のみが「担任の業務」ではなく、担当する授業等を含めた全てに学年団が関わっていくという意識を持つ。

3 教員・児童生徒アンケートの結果について 1回目：令和7年7月 2回目：令和7年12月～令和8年1月

(1) 推進校教員の実施状況アンケート結果（一部抜粋）

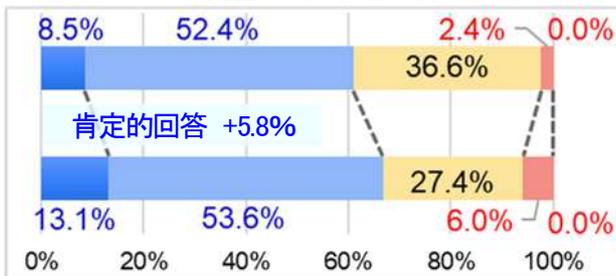
※アンケートに回答した全ての小学校教員（管理職や教科担任制に携わっていない教員を含む）の回答

○教科担任制についておたずねします。「教科担任をすることで…」

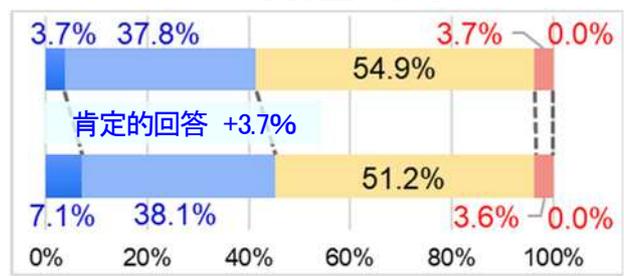
- とても 当てはまる ■どちらかと言え 当てはまる ■どちらとも言え ない ■どちらかと言え ば 当てはまらない ■全 当てはまらない

上のグラフが1回目、下のグラフが2回目

「児童の授業の理解度の向上」



「授業が好きな児童が増加」



「楽しく学校に通う児童が増加」



「教員が児童と向き合う時間が確保されている」



「教員の時間外勤務時間の縮減」



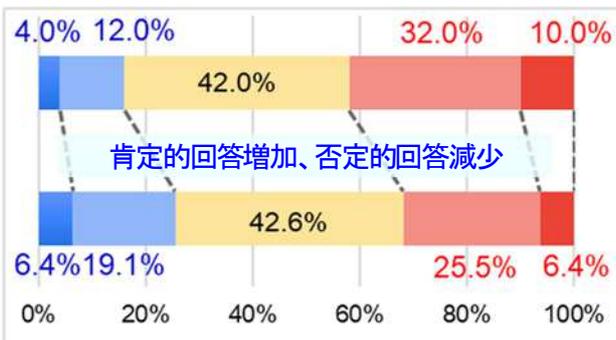
ポイント

このアンケート項目は小学校の推進校教員全員を対象にしており、「どちらとも言えない」の回答が増えています。
1回目回答と比較し、2回目回答で肯定的回答が増加しています。教科担任制が各教員の得意分野や専門性を生かせること、教科が限定され教材研究が充実させられること等が授業の質の向上につながっていますが、多数の児童と関わることでそれぞれの児童との関係が希薄になっていると感じている様子が伺えます。

※チーム担任制を「現在している」小学校・中学校教員の回答

○学年（チーム）担任制についてあなたはごどう思いますか

- とても満足している ■満足している ■どちらとも言えない ■満足していない ■まったく満足していない



ポイント

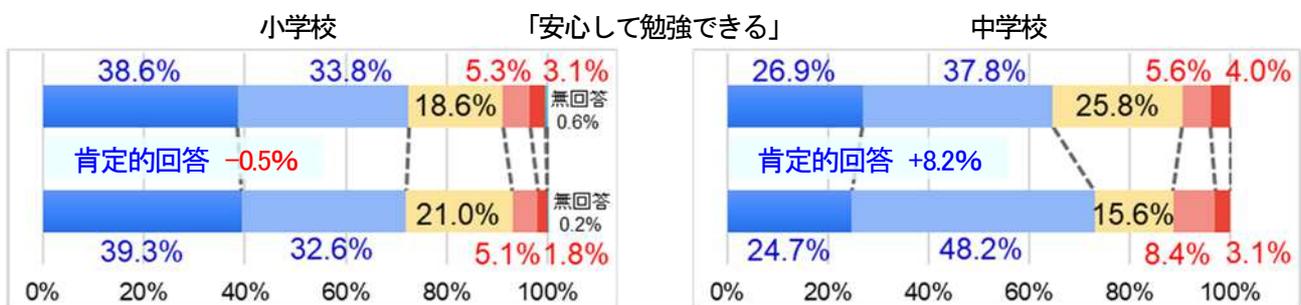
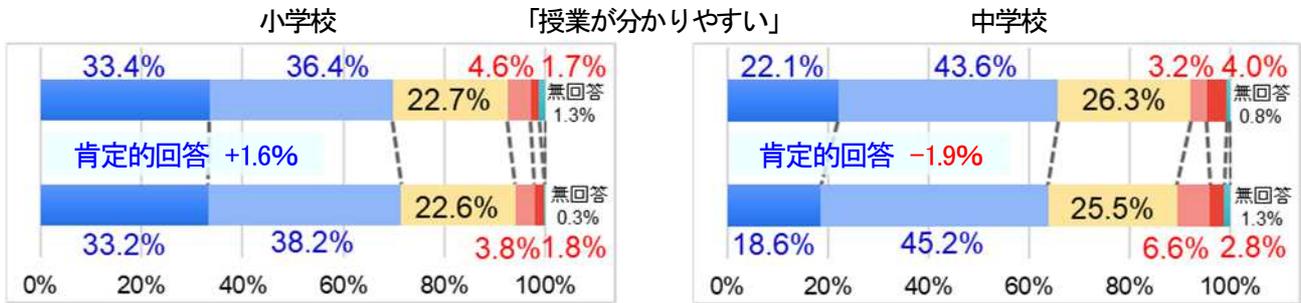
学年（チーム）担任制をしている教員の1回目回答は約4割が否定的でしたが、12月回答の2回目は肯定的な回答が増えつつあります。学年（チーム）担任制をしている小学校教員の「教科担任制で楽しく学校に通う児童の増加」や「教科担任制で教員が児童と向き合う時間が確保されている」の肯定的評価は2回目で大幅に増加傾向がみられたことから、新しいことに取り組んでいくことで、チーム担任制の改善点を解消していったり、システムのよさに気づいたりしているものと考えられます。

(2) 児童生徒実施状況アンケート結果（一部抜粋）

※アンケートに回答した全ての小学生・中学生の回答

○「教科ごとに先生が変わるので…」

■とてもそう思う ■そう思う ■どちらとも言えない ■そう思わない ■まったくそう思わない

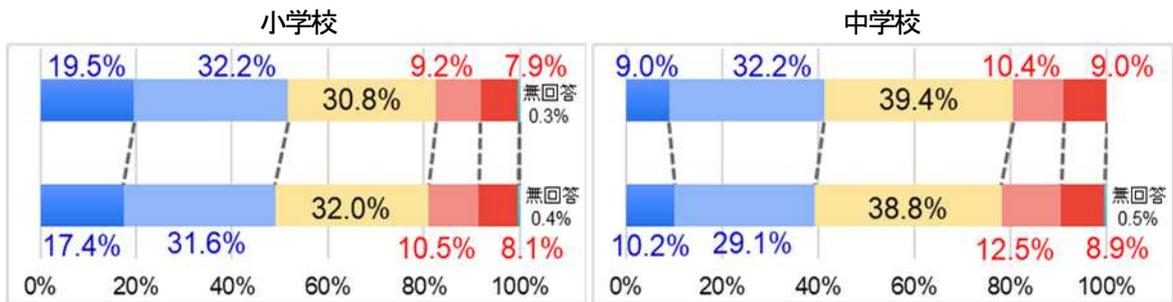


ポイント 児童生徒の回答については肯定的な回答が高くなっていますが、上記項目の1割程度は否定的な回答があることにも注目する必要があります。小学校内及び小学校から中学校へ進学する際に、固定担任から教科担任へ変わることが負担となっている児童生徒に対しての支援を検討することが必要です。

※チーム担任制の学校の小学生・中学生の回答（1回目調査までは担任がローテーションしなかった福生東小を除く）

○担任の先生が定期的にかわることにあなたはどのように思いますか

■とても満足している ■満足している ■どちらとも言えない ■満足していない ■まったく満足していない



児童生徒の声

肯定的な回答 約4割～5割	どちらとも言えない 約3割～4割	否定的な回答はそれぞれ約2割
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな先生に自分の勉強を見てもらえるから ・先生ごとに違う楽しさがあるから ・先生の良さが分かるから ・色々な先生と関係が深まり、複数の意見が反映されるから 	<ul style="list-style-type: none"> ・変わっても変わってなくても授業は変わらないから ・先生によってルールが違うから ・先生同士で情報が回ってない時があると感じるから ・行事のときに団結力がないと思うから 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動などを相談ができないから ・とても素敵な先生がいるから ・1人の先生に対する継続的な相談がしにくいと感じるから ・環境が頻繁に変わりストレスを感じてしまう友達がいるから

ポイント 本年度の調査において、肯定的な回答は約4割～5割に留まりました。今後の変化に注視する必要があります。否定的な回答は学校体制の改善点として見ることができ、「学級活動の相談」は子どもたちが主体的になれば学年のどの先生でもよくなったり、継続的な相談も「チームで学年全体の子どものを見る」という考えが根付くとやりやすくなったりすると思います。

4 教科担任制及びチーム担任制の実際 導入前、導入後Q&A ～推進校の取組から～

Q：担任が固定されていないと、個人懇談は誰がするの？

A：推進校A…その時のローテーション担任が行うことを基本とし、保護者の希望をとる。

推進校B…懇談は選択制とした。希望調査で「どの先生でもよい」の回答を作っておき、人数を調整する。ただし、実際やってみると希望の偏りが発生した。

Q：保護者が学校に連絡したいときには、誰にすればいいの？

A：推進校A…その時のローテーション担任に連絡する。生徒指導上の問題などが生じたにも関わらず、担任がローテーションしてしまっている場合は、前の担任が対応することもある。

Q：家庭学習は誰が出すの？誰がチェックをするの？

A：推進校A…教科担任が出す。チェックも教科担任がする。そのため、「5、6年の国語担当6クラス分」を受け持つと漢字の丸付け等業務が増えてしまうので配慮が必要である。

推進校B…教科担任が学級担任へ家庭学習の連絡をし、学級担任がチェックをする。教科担任がチェックする場合もある。

どちらにしても、「子どもとの約束」が必要。誰に出すのか、どのように出すのか等明確にする。

Q：掲示物は誰が作るの？

A：推進校A…学校（学年）で統一する。担当を決めて作成する。各学級で作っていた掃除当番表、給食当番表等が全体でできれば手間が減る。担任独自の「手の込んだ」掲示物にならず、すっきりさせることができる。

Q：「チーム担任制」を導入すれば、子どもたちが主体的に学ぶようになると思えませんが…？

A：チーム担任制を導入するだけで、子どもたちが主体的になるというわけではありません。児童生徒が「自分たちの学級を自分たちで創る」ためには、教員が児童生徒に対して「こうあるべき」と指示していく姿勢から「子どもに任せる」という意識の変化が必要です。また、チーム担任制が固定担任制の「1つの学級を育てる」という意識から、「同じ学年の先生でその学年全体の子どもの育てる」という意識転換のきっかけづくりとなります。子どもの主体性を伸ばすために、教員の意図的なしかけが必要となります。

Q：時間割を調整するのが今でも大変なのに、教科担任制をすることでさらに複雑になるのでは？

A：学校規模や教員配置の状況により、時間割の調整方法は異なりますので「正解」をお示しすることはできませんが、もともと教科担任制で時間割を作成している中学校の事例が参考になります。教科担任制を導入する際には、校区の中学校の教務主任等に聞いたり、既に導入している近隣の小学校に問い合わせたりしてみてもいいでしょうか。

Q：1年間、自分の学級が固定され、児童生徒と一緒に高みを目指す学級づくりをすることが「教員の醍醐味」なのでは？

A：教員主体（教員にとって）の学級づくりから、子どもが主体（子どもにとって）の学級づくりへと「意識転換」することが大切です。教員の色に染めて高めていく学級づくりを否定はしませんが、「子どもの色に染まった学級」にしていくことは子どもが主体的に学ぶことにもつながります。教員は1年間を通して「濃い」関わりはできなくなりますが、複数年「長く広く」関われるようになるので、子どもの成長を感じることができ、「学年全体の児童生徒をよりよくしていく醍醐味」があるのではないのでしょうか。

Q：たくさんの子どもと関わることになると、評価が難しいのでは？

A：固定担任制では、各学級担任が自身の見取りで各教科等の評価を行います。これが教科担任制となると、複数の学級（または学年）で授業をするため、評価規準に基づいたより客観的な評価をする必要があります。また、いろいろな教員が関わることで、一人では気づかない子どものよさを見つけやすく、多面的な評価をしていくことにもつながります。

Q：担任が変わると、先生によって態度を変える児童生徒がいるのでは？

A：教員側の改善点として、先生の指導を変えないことが挙げられます。「給食の準備のやり方」など、学年団の先生で指導が違えば、児童生徒は戸惑ってしまい、態度を変えることにつながるかもしれません。子どもから「給食を減らすときはどうすればよいですか？」と聞かれた時に、学年団内で方針が決定していなければ、「先生たちで相談してみるね。」としてみてはどうでしょうか。このように教員側で協議を重ねていけば、細かなところも指導方針が一致していくものです。チーム担任制だからこそ児童生徒の課題が見えやすくなるので、複数の教員が違った切り口で指導したり、考えさせたりすることができるのではないのでしょうか。

Q：校長として、自校の教員に「チーム担任制」の仕組みを納得させるのは難しいのでは？

A：教科担任制やチーム担任制を取り入れるには、学校長の学校マネジメントの工夫が必要です。これまでの推進校の中には、「校長の覚悟が必要」という校長先生もいらっしゃいました。これまで自分がやったことがないことに取り組むのは誰でも不安です。だからこそ、管理職のトップダウンではなく、先生方と相談しながら学校に合ったやり方を作っていきます。教科担任制及びチーム担任制によって、固定担任制の時よりもメリットが大きくなり、デメリットが小さくなれば、結果としてトータルでのメリットは大きくなります。デメリットは改善すればメリットに変わるチャンスと捉え、課題があれば途中でどんどん修正していく勇気を持つことが必要です。



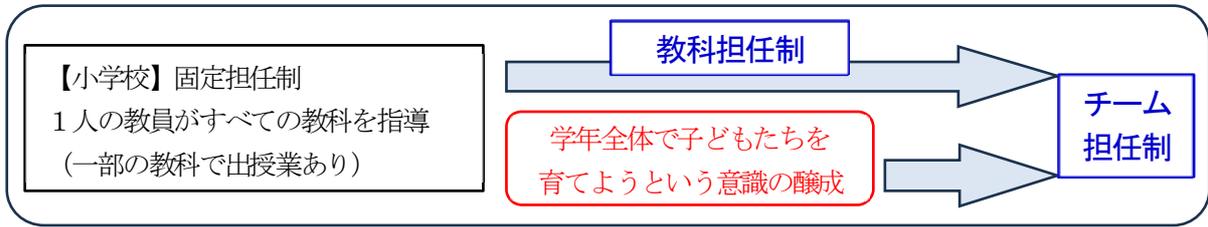
5 補足説明等

【3ページ 導入までのスケジュールの見通し ～ 推進校6校の生の声を届けます ～ 補足説明】

○教科担任制が進んでいけば、チーム担任制の導入は少しハードルが低い。

(教科担任制がもとになっている)

→第1ハードルが教科担任制、第2ハードルがチーム担任制の感覚。



これまでの小学校における固定担任制から教科担任制（学級担任間の交換授業、専科教員の教科授業）のハードルは、1つの教科で試行する等、比較的やりやすい面があります。チーム担任制を導入するにあたっては、まず教科担任制を取り入れたうえで行うことと、教員の「チームで学年全体の子どもを見る」という考え、つまり、「個人（担任）と子ども」から「チーム（または学年団）と子ども」という考えへと意識を変えていくことがポイントとなります。

一つの学級を1人の教員が担当する学級担任制を見直す動きが全国の学校で広がっている。鳥取県内の公立小学校でも中学校や高校と同じように教科ごとに異なる教員が授業を受け持つ教科担任制や、担任を固定せず複数の教員で複数クラスの担任を受け持つチーム担任制を導入。教員の負担軽減とともに指導体制の強化や児童の主体性育成につながるとして、県教委は新年度に導入を加速させる。（平塚千穂）

▼理解度の向上
小学校では担任が国語や算数などほぼ全教科の授業を行う学級担任制を基本とし、音楽など一部の技能系教科に限り教科担任制が取られてきた。近年は外国語の導入などで指導内容が専門化する一方、働き方改革が重視されるようになり、受け持つ教科を減らすことで教材研究や授業改善の時間を確保できる教科担任制が拡大。国は2022年度から小学5、6年生を対象に導入を促してきた。県教委は16年度から推進校で導入を後押ししており、26年度から各校3、4年生以上で教科担任制への転換を加速。採用試験と連動させ

県内公立小、新年度
教科別で チームで
担任制度見直し加速

▼均等化が期待
併せて導入が進むのがチ

▼郡部導入鈍く
米子市旗ヶ崎5丁目の住

吉小は数年前から3～6年

一方で課題もある。チ

せた各教員の担当教科指定や国予算を活用した加配増を計画する。県内では24年度時点で半数以上の学校が4～6年生の音楽や理科、外国語の授業で教科担任制を採用。1、2年から取り入れる学校もある。推進校の教員を対象とするアンケートでは「教員の時間外勤務の縮減につながる」とする回答が7割強に上り、「児童の授業の理解度の向上につながる」と答えた割合は9割以上に達した。

米子市旗ヶ崎5丁目の住

吉小は数年前から3～6年

一方で課題もある。チ

△担任制などの導入は各校の判断に任せられ、県内では児童数の多い市部が中心だ。郡部の小規模校などでは動きが鈍い。教科担任制でも国語や算数など基礎教科では導入が進まず、休みの時間の児童の見守りが手薄になる懸念もある。課題を踏まえ、県教委小中学校課の山本祐指導主事は「新たな仕組みに関心を持つ学校は増えており選択肢として示していきたい」と話した。

「日本海新聞 令和8年2月19日掲載」

教科担任制の更なる推進に向けて

各学校の状況に応じて小学校中学年から教科担任制の導入の検討をお願いします。

令和6年8月の中央教育審議会答申において、学びの質の向上と教員の持ち時間数軽減のため、高学年に加え、中学年についても教科担任制を推進することが示されました。また、すでに県内の多くの学校が中学年から理科や音楽で専科教員等の授業を行っており、学級担任間の交換授業も中学年で行っている学校が全体の約3割あります（令和7年度学校教育実施状況調査から）。

ぜひ、各学校の状況に応じて中学年から専科教員や級外教員による授業に加え、加配の有無にかかわらず取り組むことのできる、学級担任間の交換授業も御検討ください。

検討案① 担任間による交換授業によって、教員一人あたりの指導する教科を減らす。

【メリット】

- ・ 1教科あたりの教材研究の時間が増加する。
- ・ 1学年複数学級であれば、同じ内容の授業を複数回行うため、その都度、授業内容や指導内容をブラッシュアップすることができ、担当する教科の指導力向上がねらえる。
- ・ 1学年1学級であれば3・4年生、5・6年生をまとまりとして教科の系統性を踏まえた指導ができる。

ポイント



担当する教科数が減ることは、教材研究や授業準備、テストの丸付け等の業務負担軽減となりますが、特に若手の先生にとっては、次年度に受け持っていない教科等を教えるとなったときの不安があると思います。例えば、空き時間に受け持っていない教科の授業を参観したり、毎年受け持つ教科を変えて、複数年ですべての教科を指導できるようにしたりする等の工夫が考えられます。

検討案② 試しに1単元だけで交換授業を行ってみるなど、やってみて「手ごたえ」を実感する。

【メリット】

- ・ 1単元のみなので、取組が難しい場合は元に戻せる。
- ・ 他の学級の児童生徒の様子分かり、学年での指導がしやすくなる。

ポイント

1学年複数学級ある場合、特別の教科 道徳で同一の教材を使い、同じ先生が全学級で授業を行うローテーション授業を行うこともできます。日頃から、児童生徒の様子や情報を共有することによって、他学級の授業を行う際に、児童生徒の特性や配慮事項等に応じた指導ができます。児童生徒とのつながりを持つ先生が増えることは、児童生徒理解や指導においてプラスに働くことが考えられます。

ポイント



【参考】「小学校高学年における教科担任制に関する事例集～小学校教育の活性化に繋げるために～」

この事例集は、義務教育9年間を見通しつつ、教科担任制の更なる導入を円滑に進めるとともに、学校現場において効果的に運用するために、教科担任制を小学校教育の活性化に繋げている好事例について、その特徴や運営上の工夫、効果を「見える化」したものです。

文部科学省ホームページの下記URLまたは二次元コードからアクセスし、教科担任制を検討・推進する際の参考としてください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/other/mext_00005.html



